

すわみつえ通信

No.172 2021年5月10日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

憲法9条守れ！ 国民投票法強行許すな！



鴻巣駅自由通路=5月7日

新型コロナの感染がどじまるどじまふか拡大の一途をたどっています。しかも、このときに政治が全力を集中すべき課題は、感染拡大から市民のいのちとくらしを守ることです。ところが、衆院憲法審査会で5月6日、与党提出の改憲のための国民投票法改定案が採択され、賛成多数で修正のうえ可決されました。憲法9条の改正を中心とする明文改憲への道を開こうとしています。5月7日、鴻巣駅自由通路で憲法の条守れの声を市民の皆さんへ届けました。

コロナ感染から市民のいのちとくらしを守れ！「あつたかシテイさいたま」実現への応援

5月9日告示(23日投票)で、さいたま市長選が行われます。日本共産党は「みんなのさいたま市をつくる会の一員として、同会の『前島ひでお』氏(68)無所属新を応援しています。

前島氏は、市民第一の「あつたか市政」への転換へ奮闘しています。すわみつえ市議は、コールテンウェーク中に宣伝カーで応援に行きました。福祉をどんどん削り、「待機児童日本一」「医師数・ベッド数・教職員数は全国の政令市で最下位」の市政を「ケアに手厚いさいたま市政」に転換しようと訴えました。



(右の写真)JR川越線・指扇駅前にて
前島ひでお氏の応援宣伝=5月4日

笠原地域から鴻巣中央小学校に通う通学路の安全は

今年度より大型バスでの登校支援に変わった、笠原地域から中央小に通う児童の様子を調査しました。保護者から、「運転手がひとりで乗降を見ているだけで心配。児童の乗降時の手指消毒、シートベルト着用のチェックがない等」、安全を心配する声が寄せられました。連休明けの5月6日から5月8日の3日間、乗車場所の東光寺と降車場所の中央小正門で乗降時の調査をしました。



母の日にお花が届く

俳句コーナー

瑠璃子

種まくやマンサクはいま花盛り

保護者から教育委員会に心配の声を上げており、当日は、教育委員会の職員がバスに乗車し、子どもたちの様子を確認していました。バスには1年生と2年生の15名前後が乗車しました。安全を第一に考え運行する」とが求められます。来年度からは当市において初めてのスクールバスの運行となります。今から課題の抽出をしていくべきと感じました。



鴻巣中央小学校に通うため、東光寺(笠原)でバスに乗り込む子どもたち=5月6日(木)7:45

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

5・2 北関東オンライン演説会は大成功！



5月2日（日）、鴻巣市市民活動センター会議室での、パソコンから大きなスクリーンに映し出された日本共産党・小池晃書記局長は迫力満点でした。「菅政権への国民の怒りは臨界点を超えており、野党連合政権の扉を北関東から開こう」と訴えました。

会場には22名のご参加がありました。鴻巣市内の他の会場でも多くの方が同時に視聴され、「総選挙で政権交代を」と決意あらたになりました。

しんぶん赤旗 5月8日付



開催中止を求めるオンライン署名サイト

●宇都宮健児さんが8日、五輪選手へのネット上の“辞退要請”は違う！
とツイートを更新しました。

『現在東京五輪代表に内定した選手に出場辞退を求める声がネットで溢れている。だが五輪中止を求める相手は選手ではなく、主催者であるIOC、IPC、国、東京都、組織委である。当然のことながら選手にはいっさいの非はない。見通しの立たない辛い状況に置かれている選手をこれ以上苦しめてはならない』と訴えました。

東京オリンピック・パラリンピック開催の中止を求めるオンライン署名に、5月9日午後3時30分時点で約30万人の賛同者が集まりました。呼びかけ人は、日本弁護士連合会元会長の宇都宮健児さん。五輪開催は、コロナ禍で疲弊している医療従事者をさらに苦しめ、住民・参加者を危険にさらすと訴えています。

署名はオンライン署名サイト
ト・（エンジ・ドット・オーニング）で5月5日から開始されています。宛先は、国際オリンピック委員会（IOC）の

宇都宮・パラリンピック組織委員会（IPC）のバッハ会長や菅義偉首相、東京五輪・パラリンピック組織委員会（TOKYO 2020）の五輪開催アリーティスト・（エンジ・ドット・オーニング）で5月5日から開始されています。宛先は、国際オリンピック委員会（IOC）の

宇都宮さんは、「政府や都は、五輪開催ありきでコロナ対策に重点を置いていない。医療もひつ迫していく開催は無謀。早く中止を決断し、生活困窮者や業者の支援に全力を挙げるべきだ」と話しています。

しんぶん赤旗の取材に宇都宮さんは、「政府や都は、五輪開催ありきでコロナ対策に重点を置いていない。医療もひつ迫していく開催は無謀。早く中止を決断し、生活困窮者や業者の支援に全力を挙げるべきだ」と話しています。



宇都宮健児さん
よびかけ

5日間で30万人賛同!!

五輪中止署名急拡大

医療は限界 五輪やめて！ コロナ病床抱え、悲痛訴え話題に

しんぶん赤旗
5月8日付

新型コロナの重症患者らを受け入れる東京都立川市の立川相互病院（民医連加盟）の窓に、4月30日からメッセージが貼り出されている。「医療は限界 五輪やめて！」。道行く人も思わず見入ってしまう医療現場からの声一。

立川相互病院は昨年4月から新型コロナウイルス患者の受け入れを始めました。高橋雅哉院長は「病院が窮状にある中、オリンピックの開催でコロナ感染拡大が懸念される。さらに五輪への看護師や医師の派遣要請などを報道で知り、病院としてメッセージを表明する必要を感じた。国公立病院などで意見表明は困難であろうと考え、自由な立場の一民間病院である当院が踏み切った」といいます。

立川相互病院は、昨年からの新型コロナ流行の中で、中途で入職する看護師が減り、ギリギリの人員配置を強いられています。また、コロナ診療のために一般診療が圧迫され、救急車の受け入れ率が激減。院内感染を予防するため、1年前から職員への行動制限を徹底しています。「疲労のために退職が出れば、将棋倒し的に医療崩壊につながりかねない」（高橋院長）状況です。増子基志事務長は「五輪の選手や関係者の努力を考えると心苦しいが、今の感染拡大の状況ではオリンピックには反対だ」といいます。



立川相互病院の窓に貼られた「医療は限界 五輪やめて！ もうカンベン オリンピックむり！」と訴える張り紙。=東京都立川市

立川相互病院 窓に張り紙